

平成30年度第2回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成31年3月26日（火）午後1時30分～3時
- 2 場 所：千葉市立郷土博物館 講座室
- 3 出席者：（委員）
吉田会長、本郷副会長、今井委員、加納委員
（千葉市史編集委員会代表）
池田委員長
（事務局）
潮見生涯学習部長、稲葉文化財課長、西田主査、
朝生郷土博物館長、芦田副館長、高橋主査、土屋主任主事、
白井（囑託）、大関（囑託）、笹川（囑託）

4 議 題

- (1) 『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について
- (2) 平成30年度事業報告及び平成31年度事業予定案について
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について
『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について、編集作業体制、編集方針案、構成案、史料選定の状況などを説明し、今後の編集方法などについて確認した。
- (2) 平成30年度事業報告及び平成31年度事業予定案について
平成30年度事業報告及び平成31年度事業予定案について説明した。刊行事業や普及事業、市史協力員（ボランティア）の活動などについて意見が出された。
- (3) その他
特になし。

6 会議経過

午後1時30分、委員5人中3人着席。

司会（高橋主査）より、千葉市史編さん会議設置条例第5条第2項の規定により、会議が成立する旨が告げられ開会。その後、資料の確認、潮見生涯学習部長、本郷副会長の挨拶に続き、千葉市史編さん会議設置条例第4条第4項及び第5条第1項の規定により副会長が議長となり議事に入った。その後、吉田会長が議題1の審議中に到着されたので、議題2以降は吉田会長が議長となった。

議題1 『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について

『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について、編集作業体制、編集方針案、構成案、史料選定の状況などを芦田副館長が説明。

<質疑応答>

本郷副会長：では、議題1について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。全体の担当

者の割り振りが出ているが、第3編「教育とくらし」は人数的に手薄なのかと思う。
これは定まった体制なのか。それとも編集委員を増やす予定はあるのか。

池田委員長：この体制でほぼ確定である。

また、構成案について若干補足したい。前回とは異なり、各編を分野に沿った構成に変更した。この案は3月上旬に開催した近現代史部会で提出して、おおよそ了承を得たものであるが、その後2点変更があった。

第2編第1章「野と水の近代化」は、部会後に担当者から聞いたところ、第2編と第3編の双方に関わる内容であるという意見であった。そのため、例えば第3編の後に新たな編として独立させるか、あるいは終章のような形にするとか、とにかく独立させた形で再検討することになった。

もう1点は、千葉市立郷土博物館所蔵の藤原進家文書には、県庁の仕様書のほか、県立千葉病院や千葉師範学校などの仕様書がある。こうした貴重な史料が多くあるので、近代建築の項目としてまとめたかどうかという意見があり、現在検討中である。

建築の仕様書という性格から、専門の方でないといふ歴史的な意義や役割などが見出せない。そのため、全国各地の歴史的建築物の調査を精力的にされている、一級建築士の方に史料解説を担当していただけないか考えている。また、これを機会に、その方には編集委員の立場として、千葉市内の歴史的建造物を調査していただき、その成果を『史料編近現代』の第2巻・第3巻に反映できないかとも考えている。

本郷副会長：今後進めていく間に構成案も変わり、それに合わせて編集委員の構成も柔軟に考えていただければと思う。そもそも藤原進家文書とはどういった史料群なのか。

事務局（土屋）：明治期に大工をしていた家の史料群である。

池田委員長：県庁や病院、小学校や師範学校などの建築に関わっていた方の方である。

本郷副会長：設計図などもあるのか。

事務局（土屋）：県立千葉病院は平面図が残っている。

吉田会長：建築関係史料は非常に重要だと思う。藤原家文書にとどまらず、千葉市内には歴史的建造物は相当あるのではないかと思う。建築史の専門家のサポートを得ながら、別編として歴史的建造物の史料を一括してまとめた方がいいのではと思う。

池田委員長：第1巻は藤原家文書が中心となるが、第2巻及び第3巻については、例えば近代の陸軍施設などを扱い、現存する旧建物の調査についても今後考えていきたい。

また、調査の成果をどこに組み入れるかについては、部会でも検討したい。

吉田会長：千葉県は他県に比べて建築史の専門家も多くいらっしゃるの、そうした方々との協力や協働も重要かと思う。

池田委員長：本格的に調査するのであれば、何人かの専門家にご協力いただくことも考えられる。

本郷副会長：建築関係については、第1巻でどこの編章節に組み入れるのかが、第2巻・第3巻のモデルにもなると思う。

吉田会長：いくつかの自治体史だと史料編の場合、歴史的建造物とか寺社建築編といった感じで独立させている。建築関係史料は、設計図面または建物から起こした図面などが入るので、活字中心の史料編に組み込むのはなかなか馴染まない。判型も大きい方がいいとか、写真も掲載するという話も聞く。

本郷副会長：そうすると、もう1冊別に作るということになるか。

吉田会長：重要性を印象付けて、別巻ということも考えられるかもしれない。

池田委員長：第1巻については、1つの章の中で扱う予定である。

本郷副会長：仕様書自体を掲載するかどうかも考えないといけない。残っている史料からどれだけ復原できるかも、ひとつのモデルにはなる。

また、第2編第1章「野と水の近代化」について、タイトル名にオリジナリティがあつてよいが、これもどこに組み入れるのか、まだ考えているということか。

池田委員長：議論の決着がまだついていない。内容的には確かに第2編・第3編の双方にまたがるものがある。終章あるいは独立させた編にするかも未定である。

本郷副会長：分野別にすると切り分けの難しさなどがどうしても出てくる。

吉田会長：『史料編近世』との関連性や整合性などを念頭に置くと、地域とか町村、地域社会というものを、むしろ前面に立てたいと思ってしまうのだが、第1編は「行政と政治のあゆみ」というより、むしろその下での地域や町村、という内容になっているようにも受け取れる。

「野と水の近代化」も第3編4章「地域社会の状況」もそうだが、あちこちに地域や町村が散りばめられている印象を持ってしまう。教育分野では、近年の近代の地域社会論の問題でいうと、学区の問題が改めてクローズアップされているように見受けられる。教育の分野で扱われている学区というのを、単なる教育の制度や枠組みではなく、近世以来の地域社会が、近代に入ってどのように継承されるのかというのが、町村の近代化の大きな1つの焦点になっているのではと思う。

池田委員長：『史料編近現代』では、掲載史料の前に、近現代の千葉市の特徴を押さえた概説を掲載する予定なので、その辺りで地域の動きや特徴のようなものを説明する。

また、旧町村別の『史料編近世』と、分野別の『史料編近現代』ではコンセプトの違いがある。その橋渡しのため史料解説の後に、旧町村別に掲載史料群出典を掲載し、収録の掲載史料番号と『史料編近世』の掲載史料番号を明記する。自分の住んでいる地域の史料が『史料編近世』または『史料編近現代』でどこに掲載されているのかを明記することで、『史料編近世』との橋渡しができるのではないかと考えている。

本郷副会長：バランスをとることは、とても難しいことであると思う。

池田委員長：旧町村別に並べてみると、必ずしもバランスはよくない。史料を選定する際、担当者がテーマに沿って良い史料を選ぶので、結果的として地域的にアンバランスな感じになってしまう。

本郷副会長：今後はお互いに選定した史料を点検するということか。

池田委員長：おおむね選定史料が確定している。ただし、紙幅の関係もあるので、多少は整理する必要がある。そうした作業は、作業部会で各編の主任が、各編のバランスをとっていく。

本郷副会長：あとは校正作業をしながら全体の構成を練り直すということか。

今井委員：第1巻が500頁に収まるのかは、まだわからないのか。

池田委員長：具体的な数値はわからないが、各担当者には、どのくらいの頁数が割り当てられるのかを念頭に置いて選定してもらっている。多少の増減はあるかもしれないが、大幅に増えるということはない。

本郷副会長：他に何かあるか。なければ、吉田会長に議長を交代し、議題2に移る。

議題2 平成30年度事業報告及び平成31年度事業予定案について

平成30年度事業報告及び平成31年度事業予定案について、6つの項目に分けて、芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：議題2は多岐にわたるので、まずは史料調査・収集・整理事業から入りたい。

学校沿革誌については、学校に保管されていたということか。

事務局（土屋）：そうである。

吉田会長：小学校の史料は、地域史研究にとっては焦点の1つで重要だと思う。学校関係の成績簿や日誌などは、調査の対象に入っていないのか。

事務局（土屋）：今回は『史料編近現代』の構成案で学校沿革誌関係の章節があるため、今回はそれに焦点を絞って調査した。

吉田会長：学校沿革誌以外にも史料がある可能性が高いということか。

事務局（土屋）：可能性はある。

吉田会長：最近は収蔵庫を拝見していないが、史料の収蔵スペースは大丈夫なのか。

事務局（芦田）：収蔵スペースはかなり厳しい状態が続いているものの、基本的に紙史料については散逸してしまう可能性が高いので受け入れている。

吉田会長：昔から満杯というイメージであるが、会議後に収蔵庫の状況を確認してみてもどうかと思う。

続いて、刊行事業と普及事業はどうか。『千葉いまむかし』には事業の成果が反映される方が良い。例えば、調査研究活動の成果であるとか、古文書講座でテキストにした史料であるとか、市史研究講座の講演内容であるとか。

本郷副会長：市史研究講座の簡単なサマリーを『千葉いまむかし』に掲載してはどうか。

講演のタイトル名だけでなく、内容の記録も残るので良いと思う。

吉田会長：古文書ボランティアが行っている御用留の細目録作成についても、目録を載せたり、史料紹介として釈文を掲載したりするなど、いろいろ工夫できるのではないか。

事務局（芦田）：御用留の細目録など量が膨大なものはなかなか掲載が難しいが、古文書ボランティアの活動内容は、ニューズレターなどで紹介していくことはできると思う。

吉田会長：講座アンケートの集計結果で、古文書講座に応募した動機などを拝見すると、かなり熱心な方が多いと改めて感じるが。

事務局（芦田）：講座の最終回にアンケートの記入をお願いするので、かなり達成があるように見える。

吉田会長：こうした内容を見ると、改めて古文書講座を充実させた方がいいのではと思う。

この辺りは生涯学習に深く関わるので、市としても重要視すべきではないかと思う。

他に市主催の事業で同様の古文書講座は開催されているのか。

事務局（朝生）：公民館などでは開催されているところもある。

吉田会長：NPO法人ちば・生浜歴史調査会ではどうか。

今井委員：月1回程度、古文書の学習会を開催している。熱心な方と未経験の方とのバランスが難しく、結果的に同じテーマでずっと行ってきたが、来年度はテーマを少し変えてみようと思っている。ただし、御用留は文字が難しく、解読に時間もかかる。虫喰いがあっても読まなければいけないので、レベルが難しくなってしまう。

本郷副会長：古文書ボランティアの構成は現在どういった状況なのか。人数はあまり変わらないようだが、入れ替わりはあるのか。

事務局（芦田）：入れ替わりはほとんどない。同じ時期に始めた方がずっと続けている。解読スキルもどんどん上がってしまうので、新しい方が後から入ってくるのは難しいというのが現状である。

本郷副会長：古文書を学習したいという熱意をうまく吸い上げ、活かせればと思うが。

吉田会長：古文書ボランティアも初級ないし中級のグループを設定するとか。

本郷副会長：作業の曜日を替えて新しいグループを作ることも考えられる。

加納委員：現在のボランティアが新しいボランティアを育成するとか、そういう仕組みを作ってもいいのではないかと思う。せっかく古文書講座を受講して能力を高めたい方がいるのなら、その熱意は汲んであげた方がいい。

吉田会長：市史編さん事業の財産だと思う。

加納委員：活躍の場を与えてあげないと勿体ない。

吉田会長：現地での調査研究活動は、非常に重要なことだと思う。こうした活動が増えていくといいと思う。今年度は数回、地域の方と交流する機会を得た。ある地域では、古文書からどういうことがわかるかについて説明し、『千葉いまむかし』にその内容をまとめている。別の地域では、旧家で保管している古文書の入った茶箱を確認したところ、保存状態が良くなかったので、借用して手当することになった。

どの地域も、大都市を抱える千葉市の中で、希有なほど江戸時代の原風景が色濃く残る非常に美しい景観で、集落の様子も江戸時代とほとんど変わっていない。千葉市が歴史や文化を大事にする自治体であるなら、こうした文化的な景観を大事にすべきではないかと思う。

事務局（土屋）：千葉市には、こうした昔からの景観が残っている地域もあるし、場合によっては史料が残っている地域もある。今後もこうした地域に出向き、調査研究活動を通じて、地域の方々と交流していきたいと考えている。

吉田会長：他に何もなければ、議題3に移る。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：議題3はその他とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって、議事を終了する。

司会（高橋主査）の進行により、平成30年度第2回千葉市史編さん会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231